

# 紅蓮禅尼供養と島巡り観月灯笼流し<Let's俳句 i n g>

—第22回「芭蕉の道を辿り、往時をしのぶ集い」—10月12(土)休日開催

栗名月(九月十三夜)

**申込方法** 8月20日より、研修参加者募集開始 先着100名

**開催日** 令和元年 10月12(土)休日【小雨決行】  
午後 13:40 集合 JR松島海岸駅集合

**申込先** [malkyo@wave.plala.or.jp](mailto:malkyo@wave.plala.or.jp) 京野英一宛  
(E-mail) 090-8923-1271

**研修参加費** 5,500円 (全て実費税込)  
■入館料、観月乗船券、ミニ法要膳、お抹茶、飲物、損保、資料代含む

**振込先** ゆうちょう銀行(郵貯) 18100-35139541

## おくの細道松島海道

準備都合上、10月8日以降のキャンセルはご容赦下さい。  
後日、テキスト資料の発送にて代えさせていただきます。

### 参加申込書

(お名前)

(ご住所)

(電話番号)

※傷害保険に必要ですので、年齢を記入して下さい

( )

☐ 女性 ☐ 男性 歳

駅前 13:40受付

JR松島海岸駅

13:50出発

(松島海岸駅仙台行 19:57発)

トイレ休憩

徒歩15分

14:00着

雄島散策

14:40発

15:00着

天麟院

15:40発

トイレ休憩

円通院前  
比翼塚・紅蓮墓参

タニと  
蜂屋小太郎

瑞巖寺総門前

16:00

観瀾亭

トイレ休憩

松島博物館

16:40

16:50 月の出

17:00

発句回収

松島観光棧橋・第3仁王丸 2 階デッキ  
船上野点 (表千家 渡辺宗津)



芭蕉の松島宿・熱田屋(久之助主)



奥の細道紀行三三〇年

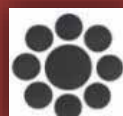


芭蕉命日

元禄七年

10月12日

供養



嘉暦四年(1329)8月13日紅蓮没 鎌倉幕府

## 趣意書 特別名勝・松島の町興し「紅蓮禪尼と芭蕉供養の島巡り観月灯籠流し」

### 『奥の細道』紀行 330 年 第 22 回「芭蕉の道を辿り、往時を偲ぶ集い」

虎哉禅師が著した『松島方丈記』（慶長 15 年）以来、藩政時代の松島は「日本が誇る天下第一の景勝地」として、数々の史書に記されてきました。従来の「日本三景」発信に加え、松島の町興しには、「何故、松島が日本一の景勝地として伝えられて来たか」を真摯に据えるべきと考えています。歴史的には、平安末期『撰集抄』に記述の「雄島の“月まつしまの聖と西行上人”の説話」から連綿と伝えられてきた松島観月文化に注目しています。

平安時代から、都ひとの和歌に詠まれた月松島は言葉に云い尽くせない風雅を保ってきました。以後、月明かりの松島湾が日本の作庭史上、理想的な浄土庭園（寂光浄土）として慕われました。仙台藩祖・政宗公が、湾内の要（亀ヶ崎）に月見御殿【後の観瀾亭】を配した安土桃山様式建築は白砂青松の湾内に調和を成し、日本一の風雅が凝縮されました。こうして全国の諸藩大名も塩竈・松島（千賀の浦・雄島が磯）をモデルとした池泉式回遊庭園を作庭したと伝わります。

（京都市「桂離宮」、枳殻園、醍醐寺「三宝院」、「」、横浜市「三溪園」などの池泉回遊式庭園）

奥州松島の最大行事は、伊達家菩提寺の瑞巖寺による盂蘭盆会御施餓鬼、「松島灯籠流し」です。そもそもお盆の十六夜は、月夜が大変綺麗で納涼を兼ねた「先祖供養の一大行事」であり、古来より我が国の民俗行事として、古里が癒してくれる夜間散策の愉しみと思われまします。

■ 名月に関わる特別名勝・松島の主な歴史的文化を紹介します。

三月十五夜・・・徳治二年（1307）、頼賢の碑【国指定重要文化財】建立の日。

七月十六夜・・・瑞巖寺の御施餓鬼「松島灯籠流し」と念仏踊り。

八月十三夜・・・心月庵紅蓮禪尼の命日。

八月十五夜・・・慶長 9 年（1604）、伊達政宗瑞巖寺【国宝】の縄張り。仙台藩の月見行事。

九月十三夜・・・仙台藩の月見行事。

十二月十五夜・・・政宗公による五大堂【国指定重要文化財】落成の日。

郷土史ボランティア・おくの細道松島海道は 2000 年から、松島を日本一の景勝地と絶賛した『奥の細道』や前述史書等を基に、「芭蕉の道を辿り、往時を偲ぶ集い」を毎年継続し、月松島の歴史文化を発信しています。さらなる輪を広げようと、松島島巡り観光船（企）様の賛同を得て、天麟院ご住職読経の基に、2014 年より「紅蓮禪尼供養・島巡り観月灯籠流し」を毎年継続中です。

2017 年度には、宮城県より「観光王国みやぎおもてなし大賞」受賞の名誉に預かりました。この趣旨に賛同の有志スタッフを募り、別紙開催要項を記しましたので、ご理解・ご協力を心からお願い申し上げます。

以上

令和元年 8 月 吉日

主 催 おくの細道松島海道 代 表 京 野 英 一

後 援 宮城県教育委員会、松 島 町、一般社団法人 松島観光協会、  
みやぎ街道交流会 利府松島商工会、仙台農業協同組合松島支店

協 力 東北福祉大学 教 授 鈴 木 康 夫

協 賛 株式会社 紅蓮屋、松島島巡り観光船企業組合、株式会社 むとう屋、有限会社 割烹中央、

以下協賛予定団体：瑞巖寺、円通院、天麟院、伊達政宗歴史館、仙台農業協同組合、利府松島商工会、  
株式会社 松島蒲鉾本舗、ホテル大松荘、ホテル絶景の館、たいかん亭、  
小松館 好風亭、松島センチュリーホテル、松島 雪竹屋、株式会社 千歳印刷、

## 企画書：『奥の細道』紀行 330 年 第 22 回「芭蕉の道を辿り、往時を偲ぶ集い」

### — 紅蓮禅尼と芭蕉供養の島巡り観月灯籠流し —

開催日：令和元年 10 月 12 日（土・休日）（陰暦九月十三夜・栗名月）

主催：おくの細道松島海道（平成 28 年度「観光王国みやぎおもてなし大賞」受賞団体）

### ● 紅蓮禅尼、芭蕉命日供養、島巡り観月灯籠流し（108個限定）（小雨決行）

紅蓮禅尼の命日・嘉暦四年（1329）八月十三夜に因み、本年が『奥の細道』紀行 330 年を迎え、芭蕉の命日（10 月 12 日）を鑑み、松島伝統の燈籠流し（108 個）を復活する「おもてなし研修会事業」です。



— 観瀾亭からみる灯籠流し — 「陸奥国名所絵図、佐久間晴岳画」（仙台市博物館所蔵）

**開催目的：**松島観光リピーターの創造を図るボランティア養成講座の研修会事業です。

**「松島灯籠流しの由来」：**『仙台事物起源考』（元宮城県図書館長・菊池勝之助著）記載参照。

一部抜粋：「奈良時代の天平年間（729-47）に中国から伝えられたものを、瑞巖寺が円福寺と称した頃に松島に伝わったもの。……しばらく途絶えていたが、瑞巖寺 110 世・曹源祖水が文化八年（1811）頃から 108 個の灯籠を経ヶ島付近より流し、再興されたと伝わります」。



観瀾亭・月見崎の金波



瑞巖寺総門に昇る中秋の名月



雄島・渡月橋の金波



平成 28 年「観光王国みやぎおもてなし大賞授賞式」宮城県庁にて



平成 30 年度「俳句入賞者」船内表彰式